

語り合う会一本音でトーク

個性の数だけの夢とロマンの花咲く

マンネリ化を打ち破り、大胆に会の活性化を一。ならやま里山林景観形成整備活動のさらなるステップアップをめざそうと、「語り合う会一本音でトーク」が2月19日(火)、奈良市中部公民館・3階視聴覚室で催されました。夢やロマンを交えて、時間の経つのも忘れるほどに話が弾みました。

18年前、シニア自然大学校で研鑽を積み重ねられた45名の皆さんが、「大和の自然を愛します」の合い言葉の元、相集い呱呱の声を挙げた本会も、今日では発足時の4倍近い会員数となりました。

その間、シニア自然大学校OBの方たちが、先輩たちの後に続けと入会され、新風を吹き込み、先駆者としての自覚と情熱を持って、会の活動の充実に寄与されてきました。

しかし、初代会長の川井秀夫さんは、いつまでもシニアに依存しては更なる発展は望めず、いつかは先細りしていくことになりかねない、市民参加型へ、つまり地域に支えられる活動形態に徐々に切り替えていくようにしなければならない、との方針を打ち出されました。

以来、当会は、地域社会への情報の発信、地域社会の一員として地域活動への積極的な参加、会報誌の内容充実、HPの充実、学校や公民館などとの連携強化、特に近隣小学校児童への自然環境教育支援等々に、機会を捕えては力を注いできました。

その甲斐あってか、年々地域住民の方々の新入会者が増えてきました。現在では、会員のうち奈良市在住者が54%、近隣市町村を含むと70%を超えるまでになっています。

ならやま里山林景観形成整備活動に取りかかって13年目となるいま、ただ単に毎週体を動かし、思い思いに楽しみながら活動を続けているという次元より、会の将来を見据えつつ一歩ステップアップしていくことが大切ではと、知恵と夢をぶつけあっていただく、語り合う会が開催されました。

参加者は、入会5年目までの方が9名、6年以上のベテラン組が8名、それに、古川参与、辻本

事務局長が加わり総勢20名となりました。

まず、会長から語り合う会の趣旨、開催に当たっての思いなどを交えて話があり、新入会組とベテラン組の2班に分かれてグループ討議に入りました。新入会組では、初顔合わせの方もあり、自己紹介を兼ねて入会の動機や将来に向けての目標や夢などを語り合っていました。ベテラン組では、膨大化した現状に流されることのない活性化、そして新しい会員の方々に対しての先輩としてのあり方、組織体制のより健全化とともに、より良き活動を目指すための課題とその解決策などについて建設的な意見が交わされました。

各グループでの前半の意見交換会が、約1時間経過した時点で、古川参与が、ならやまプロジェクト開始から4年間の取り組みと活動の成果などを、パワーポイントに解説を加えつつ説明していただきました。

新入会組の方々からは、「ある程度整備が進んだ時期に入会したので、しっかりとした理念やコンセプトの元にプロジェクトが進められてきていることが理解できたことは良かった」ただ、「ある程度整備が進捗しているので、そこに夢を描くのは難しさもあるように思われる」「順調に進んでいるようだが、不十分にも思う」「『計画対現実』を示してもらいたい」などの意見が出されました。

「新入会員オリエンテーションは、詳細な内容で実施してもよいと思う。また、多面的な機能を持つ里山林の良さを最大限に活かし、地域との連携をさらに強化したイベントなどを企画・実践してもらいたい」などの要望も出されました。

ベテラン組では、後進の指導や育成に向けたフォロー体制、各グループ巡回体験、自然観察日の設定と参加体制、協働活動日の運営、イベントにおけるパターンの固定化と担当者の工夫の余地など、幅広い問題提起や意見の交換が行われました。

まもなく当会創設20年に近づきつつあります。当会の“成人”後の道筋を探るためにも、今後も継続して開催の予定です。新入会員の皆様のご参加をお待ちしています。

(鈴木末一 記)